



"生活直撃するインフレ DC 運用への影響は?"

一般社団法人確定拠出年金推進協会

2023/2/10 配信

DC ニュースレター

ここ1年程、インフレのニュースがメディアで多く伝えられています。皆さんも日々の生活で物価高を実感されていると思います。さてこのインフレは、DC の運用においてどのような影響を与えるのでしょうか？

インフレになると金利は上昇する

基本的に、インフレになると金利は上昇します。金利が上昇する理由は二つです。一つは、インフレ下ではお金を借りての消費や投資が有利になるため、金利に上昇圧力が掛かります。もう一つは、政策当局が金融引締め政策を行うために金利が上昇します。それぞれについて解説しましょう。

①インフレ下ではお金を借りた方が有利になる

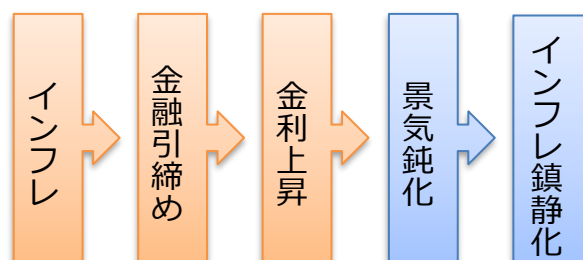
ある商品を買いたい A さんがいると仮定しましょう。商品の価格は 100 万円です。ところが今はインフレ、1 年後には 105 万円に値上がりしそうです。今のうちに買いたいけれど、A さんには現在お金に余裕がありません。そこで、年 3% のローンを組んで商品を買うことにしました。利息と合わせて 103 万円の負担で済みます。1 年後に買う場合は 105 万円必要です。つまり、インフレ下では、多少の利息を払ってでも借金をして消費や投資をした方が有利となります。その

ため、お金を借りたい人が増え、需要と供給のバランスから金利に上昇圧力が掛かります。

②金融引締めにより金利が上昇する

一方で、インフレは庶民の家計を圧迫します。給料が上がっている人はまだいいですが、そうでない人は大変です。企業においても、生産コストの上昇などで経営に悪影響がでるかもしれません。そのため、インフレが行き過ぎると、政策当局は金融引締め政策を行い、金利を意図的に高めることで景気を鈍化させ、物価を安定させようとしています。

先ほどの A さんのケースに当てはめて、金利上昇の影響を考えてみましょう。もし、金融引締めの影響でローン金利が 8% に上昇したら、A さんの負担額は 108 万円になります。こうなると、A さんは商品の購入を諦めるかもしれません。こうしたお客さんが増え商品の売れ行きが悪化すると、お店は値上げをしにくくなり、徐々に物価は安定していきます。



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら

TEL 03-5689-3358

MAIL 401k@member.deco-pa.com

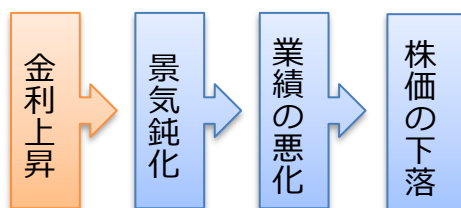
一般社団法人確定拠出年金推進協会
東京都文京区後楽 2-2-14 トークスビル 1F

<https://www.deco-pa.com>

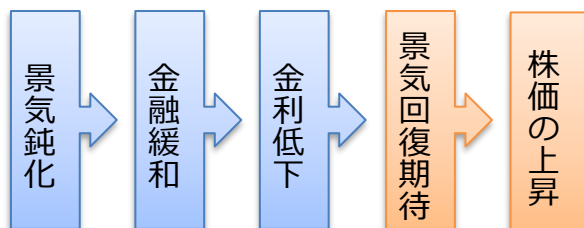


金利の上昇は株式市場のマイナス要因

基本的に、金利の上昇は株式市場のマイナス要因と考えられます。金利が上昇し景気が鈍化すると、企業業績の悪化が懸念されます。株価は企業業績に左右されるため、金利の上昇は株式市場にとってマイナスという訳です。



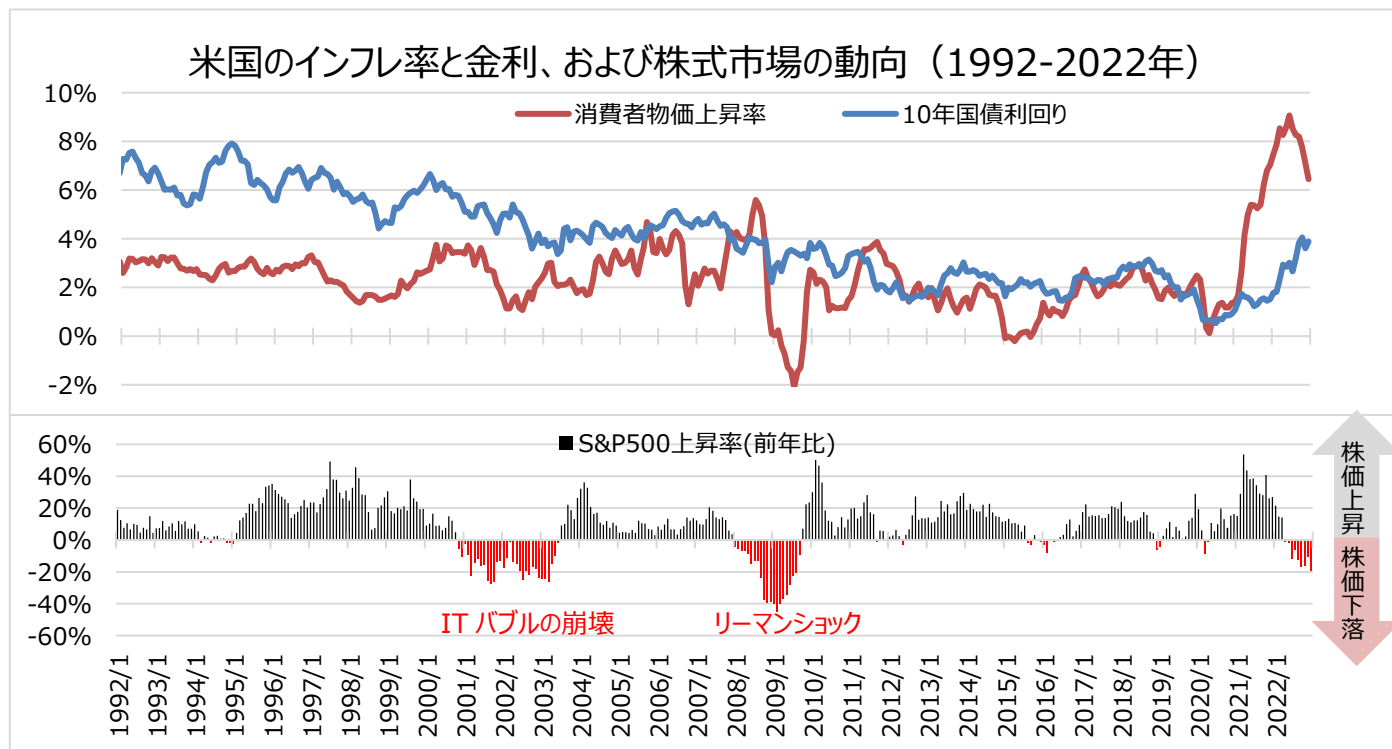
ただし、景気の鈍化を受けて、政策当局が金融緩和に転じると、景気回復への期待から株価が上昇に転じることもよくあります。



実際の動きはそんなに単純ではない

さて、実際に過去の動きを見てみると、ここまで説明したほど単純なものではありません。下のグラフは過去 30 年の、米国のインフレ率と金利、および株式市場の動向を表したものです。上段の消費者物価上昇率と 10 年国債利回りは比較的似通った動きをしていますが、大きく乖離する局面もあります。下段の S&P500 上昇率(前年比)を上段と見比べると、金利上昇時に株価が上昇するケースも多く、両者の関係は単純ではありません。なお、株式市場が大きく下落した 2001-2003 年は IT バブルの崩壊、2008-2009 年はリーマンショックといった特殊要因によるもので、インフレや金利上昇が主要因ではありません。昨年はインフレと金利上昇により株価が下落しましたが、今後については専門家の間でも意見が分かれています。

DC は長期の運用です。無理に当てにいかうとせず、愚直に分散投資を続け、成果をじっくり待つのが一番かもしれません。



(出所)米労働省、FRB、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら

TEL 03-5689-3358

MAIL 401k@member.deco-pa.com

一般社団法人確定拠出年金推進協会

東京都文京区後楽 2-2-14 トークスビル 1F

<https://www.deco-pa.com>

